

戦争遺跡保存全国シンポジウム

寄稿① 「戦後70年」大会へのお誘い

館山 愛沢 伸雄

「戦後70年」を迎え、5、6日、11年ぶりに館山で戦跡大会が開かれる。前回大会以降、市民が主役となった文化財の保存・活用は、点から線につながって面となり、地域全体を館山まるごと博物館と見立て、「平和の文化」を活かしたまちづくりを官民協働で進めてきた。平和教育や平和創造が正念場といえる。昨今、本大会では全国との地域間連携をさらに深め、地域に根ざした「平和の文化」を語り継ぎ、ピースツーリズムという平和産業を創出する契機にしたいと願っている。

ユネスコ(国連教育

全体会において河正雄(ハ・ジョンウン)氏の記念講演や、沖縄県南風原町・高知県香南市・館山市の事例を紹介するまちづくりディスカッションを行う。映画は、安房高女・安房南高校出身のせんぼんよしと監督が、香川京子主演で制作した平和祈念映画である。美しい館山の風景と戦争遺跡、やわたんまち(八幡祭り)を舞台に、平和と生命の大切さが描かれている。河正雄氏は、在日韓国人二世として日韓の架け橋となった芸術メセナの実践者である。その活動実績により、韓国光州市立美術館名誉館長や朝鮮大学校美術学名誉博士となり、韓国国宝文化勳章を受章している。また、田沢湖畔に朝鮮人労働者の慰霊碑を建立するな

ど、その活動実践は多岐にわたる。翌6日は館山市コミュニティセンターにおいて、3つの分科会での全国の事例報告のほか、「米占領軍の館山上陸と直接軍政/証言者のつどい」をテーマとした特別分科会を開催する。NHK『BS歴史館』の制作者・佐野達也氏は、ミズリ号の降伏文書調印式の後、GHQによる「三布告」の日本占領計画が中止に至った経緯と館山の軍政を紹介したドキュメンタリー番組について解説する。元館山市教育長の高橋博夫氏は、館山海軍航空隊開隊から赤山地壕建設に至る間の住宅移転命令をはじめ、米占領軍の上陸と軍政について重要な証言を行

青山学院高等部の佐藤隆一教諭は、赤山地壕に隣接した場所(現在の市営プール)に1926年開設された青山学院水泳部台宿所が、1941年9月に海軍の極秘命令により譲渡と立ち退きが緊急に実施されていたこと調査報告を行う。ほかに、安房中学の勤労動員、本土決戦下の漁村・布良の出来事、

那古地区の川崎空襲、野島崎の艦砲射撃などに関する証言が報告される。本稿では、大会の報告概要の一部をシリーズで紹介し、多くの方の参加をお待ちしている。大会参加費は、1日券1000円・2日券2000円、大学生は半額、高校生以下は無料。参加申し込み、問い合わせは090-6479-3498へ。特別企画として、5日午前は赤山地壕跡のガイドサービスを行う。「戦後70年」の企画展を8日まで、南総文化ホールギャラリー、5、6日に館山市コミュニティセンター展示室にて入場無料で開催する。(NPO法人安房文化遺産フォーラム代表)

2015年9月5、6、7日(土日)

第19回 戦争遺跡保存全国シンポジウム

～戦跡と文化財を活かしたまちづくり～ 千葉県館山大会

【参加費】1日券1,000円/2日券2,000円
 大学(学生)半額 高校生以下無料
 館山市民会館・南総文化ホール・南総文化ホール・南総文化ホール

9月5日(土) 千葉県南総文化ホール小ホール
 南総文化ホール・南総文化ホール

- 映画「赤い鯨と白い蛇」 10:00-11:45
- 全体会 13:00-16:15
- 記念講演 河正雄氏 [平和の文化]と戦後70年の評
- パネルディスカッション 千葉県館山市/沖縄県南風原町/高知県香南市

9月6日(日) 館山市コミュニティセンター
 *分科会 9:15-16:00

- 第1分科会: 保存運動の歴史と課題
- 第2分科会: 調査の方法と調査技術
- 第3分科会: 平和博物館と次世代への継承
- 特別分科会: アメリカ空襲の館山と陸上壕跡

9月7日(月) *フィールドワーク(バスツアー)
 【参加費無料】

【主催】館山、南総文化ホール、南総文化ホール、南総文化ホール、南総文化ホール

◎「戦後70年」展 8月20日(水)～9月8日(火) 南総文化ホールギャラリー
 ◎戦争遺跡保存全国ネットワーク・館山まるごと博物館 資料展 9月5日(土)～6日(日) 館山市コミュニティセンター展示室

戦争遺跡保存全国シンポジウムのポスター

寄稿②

米占領軍の館山 上陸の新史料発見

館山 愛沢 伸雄

戦争遺跡保存全国シンポジウム

館山は、米軍の関東
場や酒場の閉鎖、市民
侵攻計画「コネット」
作戦だけでなく、占領
計画「ブラックリスト」
作戦でも上陸地点と想
定されていた。第2次
世界大戦の終結とその
後の日本の占領をみる
うえで、館山は世界史
的な出来事の地であっ
たといえる。

このたび、112R
CTに関する資料を有
する米国テキサス軍事
博物館に問い合わせた
ところ、リサ・シャリ
ク副館長のご厚意で、
館山に上陸した112
RCTに関する貴重な
資料や写真（掲載写
真・米国公文書館「館
山上陸」オリジナル版）
の提供を受けた。館山
での占領軍については
不明なことが多かった
が、解明の一步となっ
た。

資料はカニンガムが
署名した報告書であ
り、初公開された。こ
こにその内容を紹介す
る。それによると、ブ
ラックリスト作戦は8
月18日に実行され、22
日に112RCTが
フィリピンから日本へ
移動を命じられ、館山
には9月3日に上陸
し、拠点を築く任務が
与えられた。また、輸
送師団や第112機甲
連隊は、館山の海岸を
上陸拠点として100
0ヤード（900m）
確保する特務を命じら
れた。事前に特殊部隊
が機雷の掃海をし、海
兵隊員を中心とする先
遣隊が館山の調査活動
をしていた。

このたび、112R
CTに関する資料を有
する米国テキサス軍事
博物館に問い合わせた
ところ、リサ・シャリ
ク副館長のご厚意で、
館山に上陸した112
RCTに関する貴重な
資料や写真（掲載写
真・米国公文書館「館
山上陸」オリジナル版）
の提供を受けた。館山
での占領軍については
不明なことが多かった
が、解明の一步となっ
た。

112RCTは2日
の午前7時に東京湾に
入り、ミズーリ号の降
伏調印式の光景を見て
いた。翌3日は、午前
3時に輸送師団が館山
湾に入り、午前7時に
館山航空基地の北3.
6ギに停泊した。すで
に先遣隊が館山の海岸
を使用するのは困難と
報告していたので、高
ノ島にある館山海軍航
空隊水上班滑走路が上
陸地として指定され
た。午前7時30分に外
務省の林外務大臣や陸軍の
野村大佐、海軍の鬼塚
大佐が、日本人通訳を
伴い滑走路に現れた。
彼らは統括指揮官、カ
ニンガムやスタッフと
の協議のため、輸送師
団の旗艦ラバカに案内
された。

日本側は、館山の
陸・海軍や民間人の状
況と、武装解除に迅速
な行動をとっていると
報告した。カニンガム
からは上記6項目の占
領指令に従って、日本
側は最大限の協力が要
請され、会談は午前9
時30分に終了した。
その時刻に112R
CTや機甲連隊などが
波状的に上陸し、基地
の周囲を占拠した。午
前10時に司令所が滑走
台そばの水上飛行機格
納庫に開設され、第11
軍団指揮官やウィルキ
ンソン中将が上陸して
査察した。数日前から
来ていた分遣隊は任務
が解かれた。司令所は
航空隊本庁舎へ移さ
れ、輸送してきたもの
積み降ろしは3日に終
了し、翌日から市内の
パトロールが強化さ
れ、館山周辺の砲台を
査察し使用不能にし
た。海岸線の道路に
沿って勝山から神戸地
区まで偵察パトロール
がおこなわれ、館山駅
には治安部隊を配備
し、館山市内には他の
占領軍兵士の立ち入り
が禁止された。

この事態のなかで外
務省館山終戦連絡委員
会の林安委員長は、カ
ニンガムによる6項目
の占領指令に驚き、す
ぐに政府・外務省に連
絡し、米太平洋陸軍総
司令部に館山の直接
軍政の中止を求めた。
マッカーサー「三布告」
と運動したもので、岡
崎勝男の迅速な行動と

この事態のなかで外
務省館山終戦連絡委員
会の林安委員長は、カ
ニンガムによる6項目
の占領指令に驚き、す
ぐに政府・外務省に連
絡し、米太平洋陸軍総
司令部に館山の直接
軍政の中止を求めた。
マッカーサー「三布告」
と運動したもので、岡
崎勝男の迅速な行動と

重光外相とマッカー
サーの会談により、3
日の「三布告」が撤回
された。ただ、軍都館
山の市民や旧軍人の動
きに注目して占領政策
のあり方を模索したと
思われ、その後の館山
市民の協力的な姿勢
や、軍事施設の解体が
順調であったことなど
が契機となって変わっ
ていったと推察され
る。なお、報告書には
「完全な地下海軍航空
司令所が館山海軍航空
基地で発見され、そこ
には完全な信号、電源、
他の様々の装備が含ま
れていた」と赤山地下
壕のことが記載されて
いる。6日には占領軍
は軍政が「米軍と市民
との間に突発しそうな
事件を未然に防ぐのが
第一の目的」と表明し、
9月7日は学校の開校
や酒場営業を許可して
いる。こうして直接軍
政は「4日間」で解除
されたのであった。
(NPO法人安房文
化遺産フォーラム代表

戦艦ミズーリ号で降
伏文書調印式がおこな
われた翌9月3日午前
9時30分、カニンガム
准将が率いる米陸軍第
8軍第11軍団112騎
兵（機動）連隊戦闘
団（以下112RCT
と略）は館山上陸し
た。上陸後、カニンガ
ムは「米軍ニヨル館山
湾地区ノ占領」6項目
の指令を出し、「軍政
参謀課」を設置した。
占領では「一切ノ学校
ヲ閉鎖」をはじめ、劇



「館山上陸」オリジナル版の写真



テキサス軍事博物館の史料

この事態のなかで外
務省館山終戦連絡委員
会の林安委員長は、カ
ニンガムによる6項目
の占領指令に驚き、す
ぐに政府・外務省に連
絡し、米太平洋陸軍総
司令部に館山の直接
軍政の中止を求めた。
マッカーサー「三布告」
と運動したもので、岡
崎勝男の迅速な行動と

戦争遺跡保存全国シンポジウム

寄稿③

GHQの「三布告」撤回と館山の直接軍政

佐野 達也

日本では8月15日を終戦記念日としているが、世界的には1945年9月2日が終戦といわれている。それは、東京湾上に停泊する戦艦ミズーリ号において降伏文書調印式がおこなわれた日である。戦争が正式に終結し、世界に平和がもたらされたはずのこの日、日本が国家存亡の危機に直面していたことはあまり知られていない。

調印式から6時間半後の夕刻、横浜終戦連絡事務局の鈴木九萬（ただかつ）は、GHQのマーシャル参謀次長から呼び出しを受け、重大な通告を受けた。終戦連絡事務局とは、GHQと日本政府の間にパイプ役として置かれ、日本外交の最前線を担っていた機関である。そこで告げられたのは「三布告」と呼ばれる占領政策であった。「日本国民二告」で始まり、GHQが日本政府を飛び越え国民を直接軍政下に支配しようとする内容である。

▽布告第一号―英語を公用語とすること
▽布告第二号―占領軍裁判所を設置され、司法権はGHQにあること（軍事裁判により死刑）
▽布告第三号―占領軍の発行する軍用紙幣B円を日本法貨とする

すでに軍票B円は各部隊に3億円を配布済であり、翌3日の朝6時に「三布告」とともに公布する予定であるという。なかでも日本政府が怖れたことは、B円乱発によるインフレーションである。権力をもった占領国が経済をコントロールすることは、日本がアメリカの州のようになってしまふことである。鈴木は、「ボツダム宣言によれば、GHQは日本政府の存在を認めているのだから、日本国民に対する命令は日本政府を通してすべきだ、日本政府を通さず直接命令するのは違反である」と反論したが、

「三布告」にはすでにマッカーサーの署名がされていた。降伏文書調印式にも立ち会っていた終戦連絡中央事務局長の岡崎勝男は、首相官邸に呼ばれ、「三布告」撤回の使命を託された。深夜、岡崎は横浜のホテルニューグランドに潜入し、就寝中のマーシャル参謀次長に直談判した結果、3日未明に、「三布告」公布を延期するという回答を取り付けた。午前8時、重光葵（まもる）外務大臣と岡崎はマッカーサー司令部のある横浜税関で待ち、直接交渉をおこなった。その結果、マッカーサーは「連合軍の目的は、日本国を破壊し国民を奴隷とすることではない。この問題は、政府及び国民の出方一つによる」と言い、正午に「三布告」は取り消された。日本政府は、GHQの直接軍政下に置かれることをきりきりで阻止したといえる。日本の運命が分かれた2日間だったのである。



ミズーリ号での降伏文書調印式

1945年9月3日、午前6時に公布予定だった「三布告」は正午に停止された。ところがこの空白の時間に、千葉県館山市では撤回されたはずの直接軍政が実施されていたのである。外交資料館の記録によれば、館山の行政を監督するのは軍政参謀課、つまり米軍であった。公的機関は閉鎖され、酒場や劇場など娯楽施設は休業させられ、夜間の外出禁止など戒厳令ともいふべき措置がとられた。9月5日の新聞には、「館山に軍政」と報道されている。千葉県立安房高校（旧安房中学）に残る当時の教務日誌によると、9月3日に学校の閉鎖が命じられ、6日までの4日間、生徒は出校停止となっている。はじめ恐怖を抱いていた市民も、上陸した正規軍の紳士的で茶目っ気ある態度に緊張感は和み、占領は平和裏に受け入れられていったと証言している。

（「BS歴史館」番組制作者）

寄稿④

館山航空隊と赤山地下壕 建設から占領軍上陸へ

館山 高橋 博夫

戦争遺跡保存全国シンポジウム

関東大震災の3年後、隆起した海を埋め立てて館山海軍航空隊（以下「館空」）の建設工事が始まった。伊豆石を積み上げ、赤山の南側を削った土砂を使って埋め立てた。足りない土砂は、本庁舎裏側の段差を削って使った。滑走路の部分は大林組がサンドポンプで浚渫して海の土砂を入れ、コンクリートで固めた。塩分を含む砂のため、東西800mの滑走路はいく状態ではなかったが、航空母艦に見立てた離着陸の訓練をしていた。

館空建設のために多くの家が移転を命じられ、「第1次疎開」が始まった。私は昭和2年生まれだが、我が家も4年2月28日に海軍へ売却し、現在地に移動している。西原区は岩盤の水脈が豊富だが、館空は人が多いので宮城の山中にダムが作られ、地下の水路で館空に水を引いた。地下壕建設が始まる

と、土砂（スリ）を捨てるために、館空から東の砂浜を埋め立てて港の岸壁が作られた。この工事に伴いスリを運搬するために「第2次疎開」が行われ、境界線は高いトタン塀で囲まれた。砂利道に軽便鉄道用のレールを敷いた道路が作られ、トロッコで海岸まで運んだ。丸太を付けただけのブレイキ装置で体重をかけて止めていたが、道路は傾斜なので勢いよく曲がると横転して怪我人も出た。

そのうち軽機関車で引っ張るようになり、踏切番のおぼさんが立つようになった。今も信号脇に当時の踏切台が残っている。台車置場は子どもの頃の遊び場だった。トロッコ作業が始まったのは、ハワイ真珠湾攻撃の前年だったと思う。

地下壕の掘削方法は、最初はツルハシで、次はダイナマイトも使っていた。サイレンや笛で安全を確認してから爆破させていた。ツルハシはすぐ刃こぼれるので、脇の小屋に鍛冶屋がいた。赤山の作業には様々な職業の人が徴用されていて、年配の陸軍の兵士も赤山を掘削する労働者として駐屯していた。西の浜には赤山を掘削している会社の組頭がいた。

大正15年に作られた青山学院水泳合宿所は赤山の前にあったが、日米開戦の前後に退去している。同校の佐藤隆一教諭の調査によると、昭和16年9月に海軍から極秘の命令があり、譲渡と立ち退きが進められたという。地下壕の建設に関係しているのではないかと

戦争が激しくなるとB29の本土空襲が始まり、館空周辺も機銃掃射を受けたため、家屋の間引きも合わせて「第3次疎開」となった。敗戦を迎え、今度は占領軍が上陸し、宮城から大賀は占領地となり住めなくなった。8月27日に「第4次疎開」が通知され、29日まで退去せよという命令だった。みんな着の身に着のまま市内の親戚などへ移り、占領は約5か月続いたと思う。4回とも疎開になった人もいた。木村屋旅館に館山終戦連絡事務所

が設置され、館山市民には戸締りと外出禁止の命令が出た。我が家は館山湾を見晴らせる高台にあるため、連絡事務所の数名が待機し、上陸の様子を見ていた。30日に上陸した先遣隊は、上半身裸で緑色の短パン、腰に拳銃をつけていた。ミズリ号の降伏調印式の翌9月3日には、館空の水上班滑走台から本隊が上陸してきた。星条旗が掲げられ、我が家の横から西側へは鉄条網が張られ、歩哨の見張り小屋が作られて機関砲がこちら側に向けて設置された。

4日間で軍政は解除となったが、道路は進入禁止のままなので、西岬国民学校で代用教員だった私は神戸経由の遠回りで通った。衛兵は戦闘服だったがフレンドリーな感じだったので、片言の英語で親しくなった。学校長と子どもたちの了解を

とり、テキサス出身というその兵士を学校へ連れて行って話をさせた。あまり教育を受けていないようで読み書きが苦手だった。また、「日本の生活が知りたい」という士官をわが家に招待した。靴を脱ぎ、畳の部屋で座布団に座る習慣や、床の間や欄間などの日本家屋に興味を示した。彼からは文化度の高さを感じた。

館山病院の穂坂与明院長や川名正義副院長らは国際人であったので、占領軍との直接交渉や軍医の視察があったらしい。10月頃には院内に米兵による英会話教室が開かれ、私も11月に少しかけ通った。市内には米兵向けのお土産屋も開かれた。先遣隊の時とは事件もいろいろ起きたが、占領軍本隊とはこのような交流が育まれ、戦後日本のストーリーとなっていた。

（元館山市教育長）



上陸後の米軍兵士らと日本人

戦争遺跡保存全国シンポジウム

韓国と日本、 二つの祖国を生きる

河正雄

第2次世界大戦が勃発し、朝鮮人に対する徴用が法制化、創氏改名令が施行された1939年、私は在日韓国人二世として生まれた。不条理な戦争への恐れと民族的な恨(ハシ)とがインプットされ、平和と幸福を希求する人生観と哲学が形成された。「恨」とは、人間の意思ではどうにもならない運命に振り回され、力が及ばない感情である。私は、韓国と日本、二つの祖国の故郷を愛し、信頼し合える兄弟になるための架け橋になろうと祈念してきた。

18歳まで秋田県で育ち画家を志したが、母に猛反対され、断念した。教師や新聞記者、弁護士にもなりたいたくない。その事例を紹介したい。

私が生まれた年、辰子姫伝説の伝わる田沢湖畔に姫観音像が建立された。これは、国策でダムと発電所が建設された時に絶滅したクニマスという魚類と辰子姫の霊を慰めるために建立した像である。戦後に町当局は掲示板を立てた。私はこの解説文に納得がいかず調査を始め、十数年かけて建立趣意書を探し出した。すると、ダムと発電所建設のために徴用され、過酷な労働で亡くなった朝鮮人を慰霊する観音像であったことが明らかになった。私が朝鮮人無縁仏追悼慰霊碑を建立した翌1991年のことである。

私は在日韓国人画家の作品を収める「田沢湖 祈りの美術館」を建設し、戦前の朝鮮人犠牲者を慰霊したいと願ったが叶わなかった。しかし、韓国光州

市立美術館に在日韓国人の作品を寄贈する縁に恵まれ、その後両国の美術館に1万余点を寄贈することになり、私の名を冠した霊巖郡立河正雄美術館も開かれた。霊巖郡は両親の故郷であり、日本に古代文化を伝えた王仁博士ゆかりの地でもある。私のコレクションのコンセプトは「祈り」である。平和への祈り、心の平安への祈り、犠牲となった人々や虐げられた人々、社会的な弱者、歴史の中で受難を受けた人々に向けられた人間の痛みへの祈り。芸術の力は、韓日のわだかまりの根源と矛盾を克服し、地平を切り拓くことになった。文化こそが、平和をつくる上で大きな鍵となる。

私が尊敬する、浅川巧という日本人がいた。日本の統治下にあった韓国へ農林技師として渡り、禿山に植林して山を蘇らせた。

朝鮮服を着て、朝鮮の食事をし、朝鮮の言葉と話して、朝鮮人を友とし、朝鮮の風習を身につけて暮らした。朝鮮の陶芸や民具の価値を認め、光を当て、韓国の文化を広く知らしめた。朝鮮人からも愛され、感謝されている。戦後、韓国では多くの日本人の墓が取りつぶされたが、浅川巧の墓は韓国人のひとによって守られてきた。私も日本で生まれた以上、日本の国で日本を愛し、日本人にも愛され、日本に貢献し、日本人と一緒に力を合わせて地域社会をよくする生き方をしよう。浅川巧から学んだ。異国人を見下すことなく、その文化を認めながら、両国の魂を結びつけて交流した先人の精神を忘れないように、全国の画家の皆さんと一緒に募金活動をしていることも素晴らしい。この作品は私が大好きな作品である。この絵は労働者の象徴である。

苦勞して私たちを育てた在日一世の姿にも重なる。小谷家住宅が公開され、船田正廣さんが制作した刻画『海の幸』のブロンズ像が設置される際には、私も韓国の光州市立美術館に常設し、日韓の友情の証にしたいと願っている。

(韓国光州市立美術館 館名譽館長)



語る河正雄氏

うにと、私は山梨県北杜市の浅川伯教・巧兄弟資料館で「清里銀河塾」を開催している。館山市には、戦跡やハンゲル四面石塔などの文化遺産を大切にすて、平和祈念活動をすすめる皆さんがいる。私は心より敬意を表している。なかでも、青木繁『海の幸』誕生の小谷家住宅を保存するため、全国の画家の皆さんと一緒に募金活動をしていることも素晴らしい。この作品は私が大好きな作品である。この絵は労働者の象徴である。